



厚生労働省 三重労働局発表

平成 29 年 5 月 30 日(火)

担 当	厚生労働省三重労働局職業安定部
	職業安定課長 田中 秀治
	職業安定課長補佐 杉本 公紀
	地方労働市場情報官 上村ひろみ 電話 059-226-2305

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(平成 29 年度第 1・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年 4 回（四半期毎）提出いただいております。

このたび、平成 29 年度第 1・四半期（29 年 4 月～6 月）実績見込み及び次期（29 年 7 月～9 月）見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 25.9%で増加、「減少」が 20.4%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 5.5。
前期と比べ 6.1 ポイント下降。次期見通しは 18.5 で上昇予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 20.0%で減少、「減少」が 23.6%で増加。D I（「増加」－「減少」）は▲3.6。
前期と比べ 12.9 ポイント下降。次期見通しは 7.2 で上昇予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 24.1%で増加、「減少」が 13.0%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 11.1。
前期と比べ 0.7 ポイント下降。次期見通しは 18.5 で上昇予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が 40.0%で 4.4 ポイント減少。「ない」は 40.0%で 12.2 ポイント増加。
D I（「ある」－「ない」）は 0.0 で 16.6 ポイント減少。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」が横ばい、「やや過剰」が増加、「不足」が減少、「やや不足」が増加。
D I（「過剰」－「不足」）は▲25.9 となり、3.3 ポイント増加（不足判断が減少）。
次期見通しは▲25.0 で「不足」判断は減少の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所は 6 事業所（11.8%）で、前期の 7 事業所（13.2%）から減少。

○資料

別添 「平成 29 年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
 - ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
 - ・調査時期 平成 29 年度第 1・四半期実績見込み及び次期（平成 29 年度 7 月～9 月）見通しについて
 - ・モニター内訳 建設業 2、製造業 44、小売業 5、サービス業等 4、事業主団体等 7
 - ・回答状況 民間企業 55 社、事業主団体等 7 団体
- （注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

平成29年度 雇用情報モニター報告集計

平成29年度 第1・四半期
三重労働局職業安定部職業安定課

28年度第4・四半期(29年1月～3月 以下前期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりましたが、29年度第1・四半期(29年4月～6月 以下今期)においても、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりました。

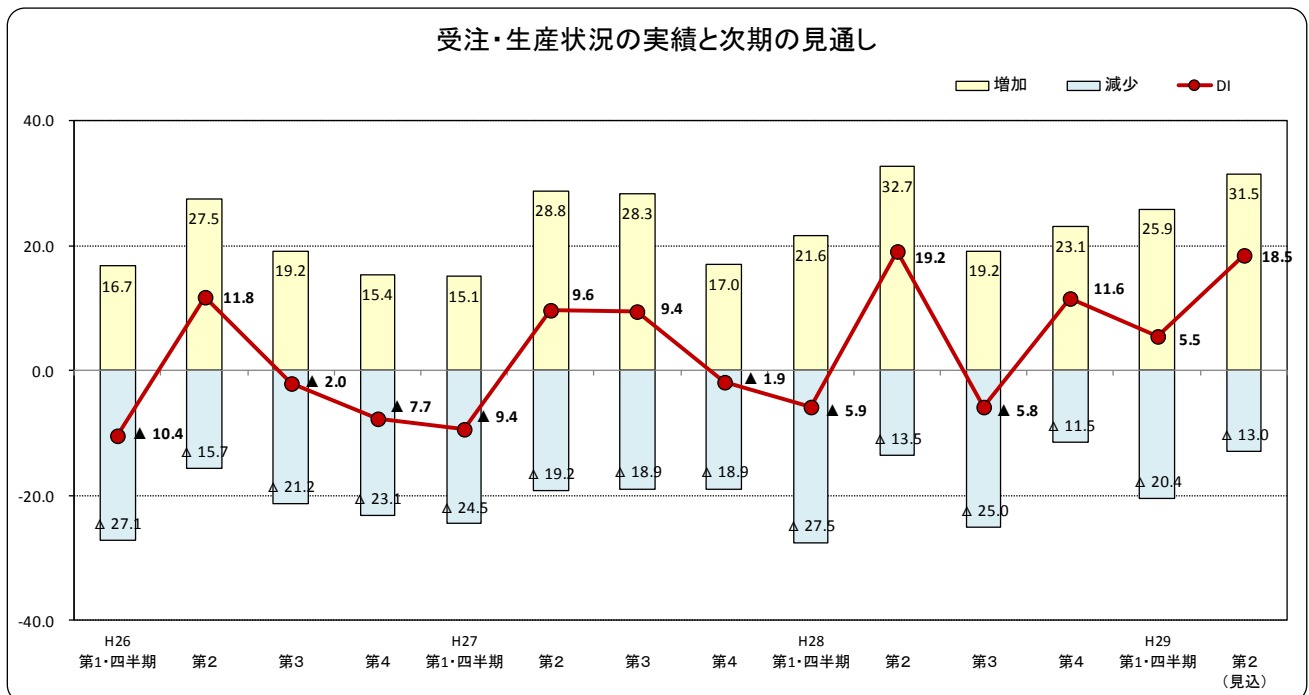
次期の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が25.9%、「減少」が20.4%で、D I(「増加」-「減少」)は5.5となり、前期と比べ6.1ポイント下降し、2期連続でプラスとなりました。

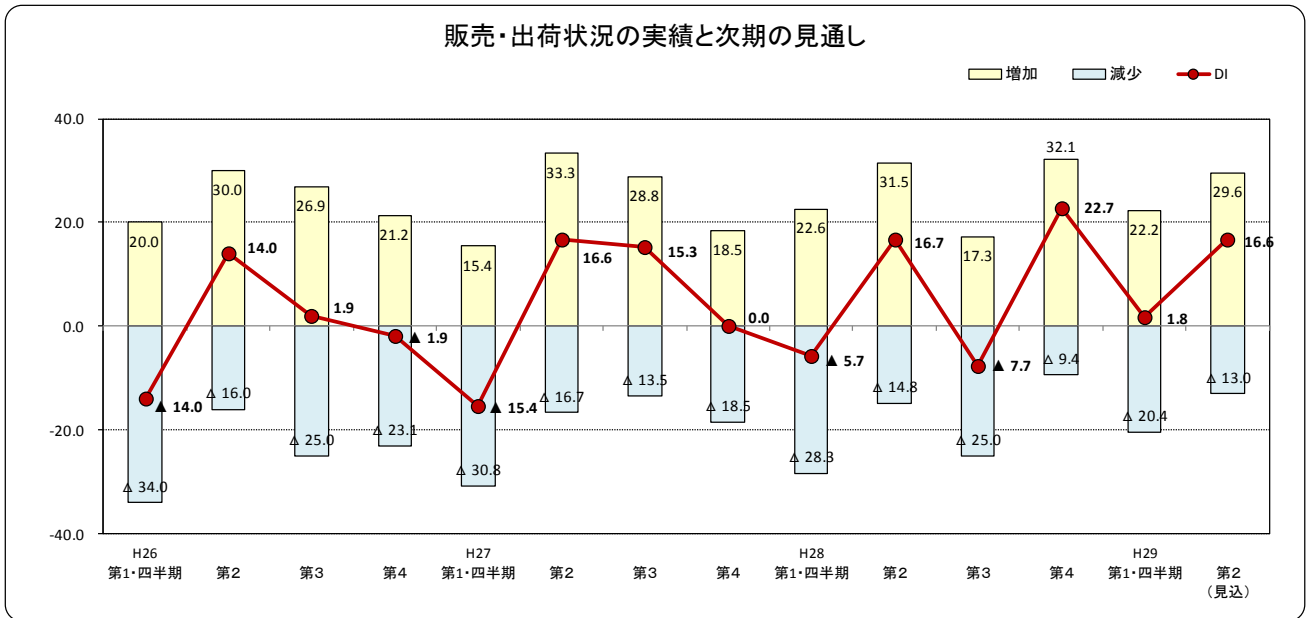
次期の見通しについては、D Iは18.5で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が22.2%、「減少」が20.4%で、D I（「増加」－「減少」）は1.8となり、前期と比べ20.9ポイント下降し、2期連続でプラスとなりました。

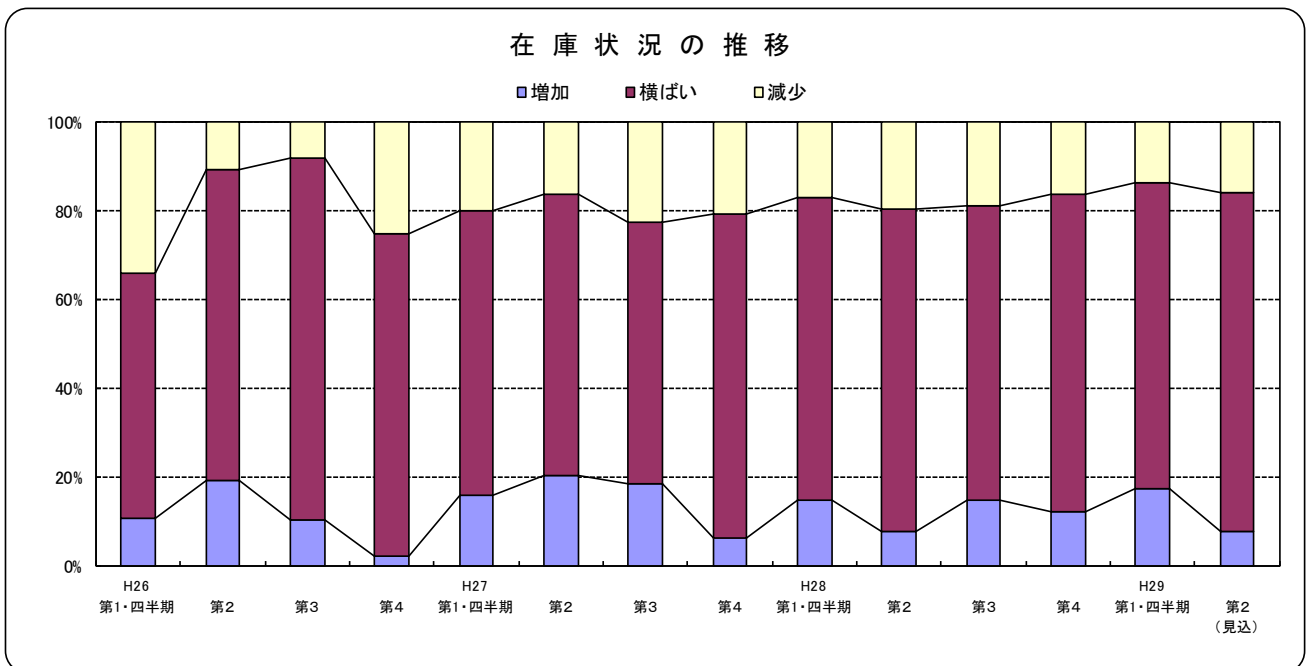
次期の見通しについては、D Iは16.6で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が減少、29期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が増加し、「増加」が減少する予想となっています。

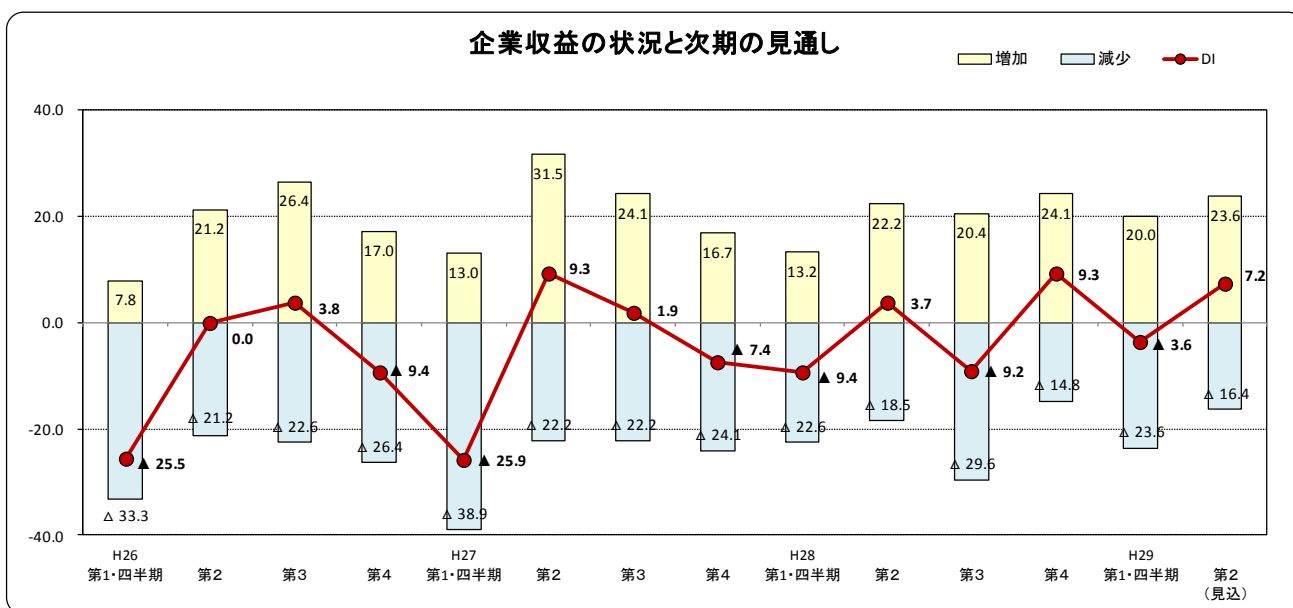


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が20.0%、「減少」が23.6%で、D I（「増加」－「減少」）は▲3.6となり、前期と比べ12.9ポイント下降し、2期ぶりにマイナスとなりました。

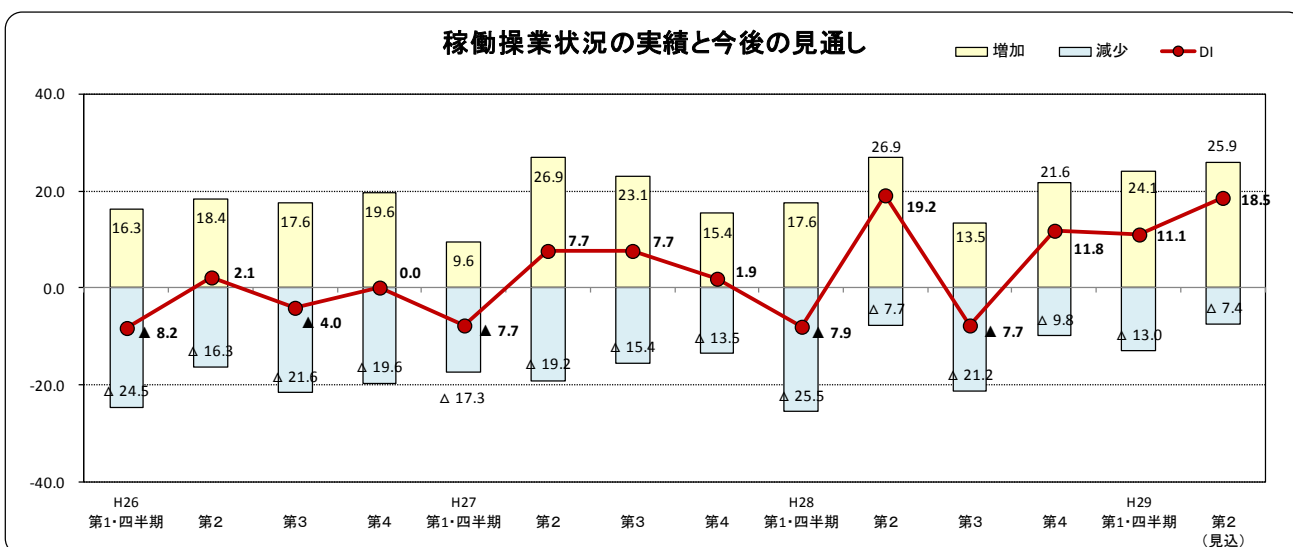
次期の見通しについては、D Iは7.2で、上昇する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

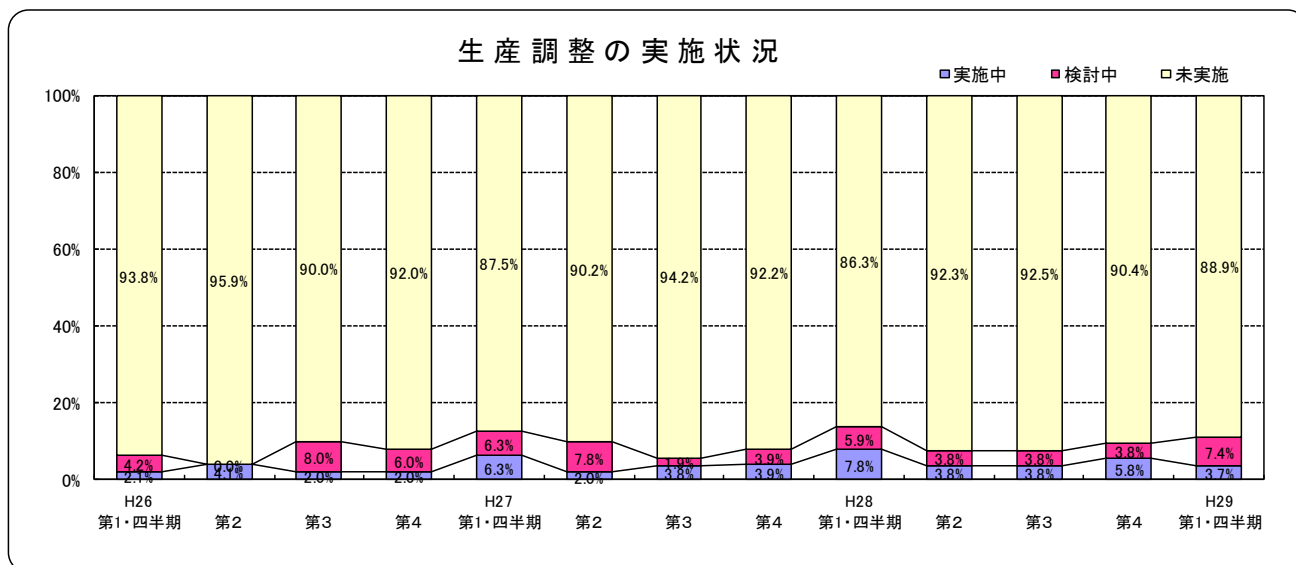
今期の稼働操業状況では、「増加」が24.1%、「減少」が13.0%で、D I（「増加」－「減少」）は11.1となり、前期と比べ0.7ポイント下降し、2期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは18.5で、上昇する予想となっています。



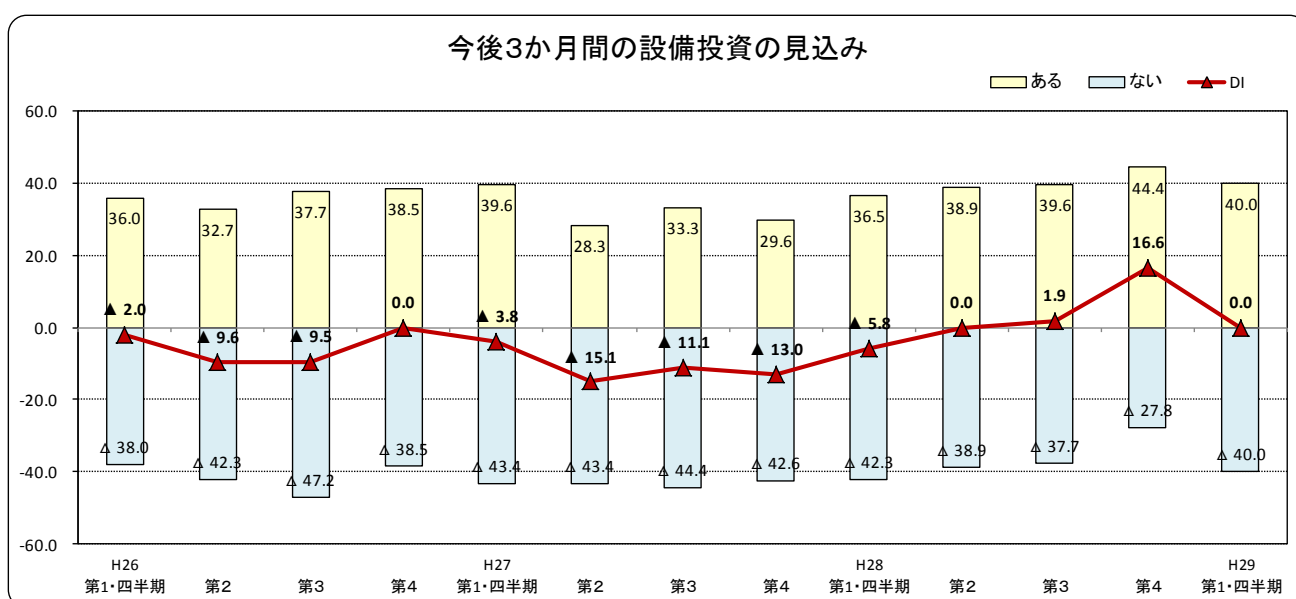
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は88.9%で前期と比べ1.5ポイント減少、「検討中」は7.4%で3.6ポイント増加、「実施中」は3.7%で2.1ポイント減少となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は40.0%で前期と比べ4.4ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は40.0%で12.2ポイント増加、DI（「ある」-「ない」）は0.0で、前期より16.6ポイント減少しました。

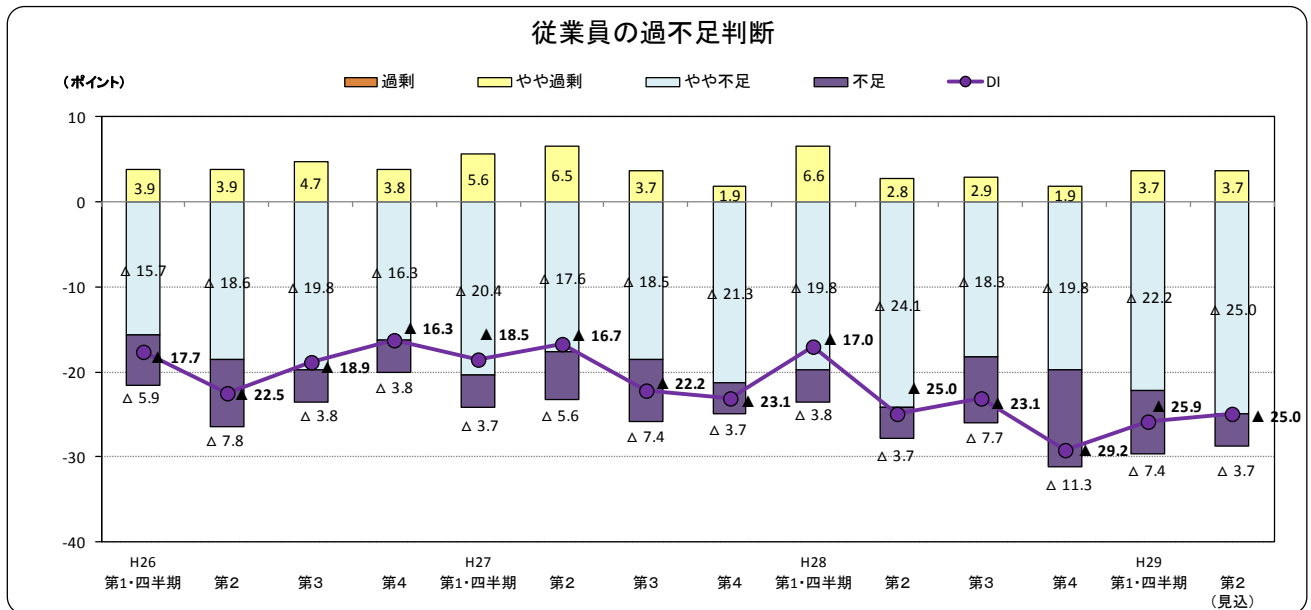


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」は0.0ポイントで横ばい、「やや過剰」とする事業所は3.7ポイントで1.8ポイント増加、「不足」は7.4ポイントで3.9ポイント減少、「やや不足」とする事業所は22.2ポイントで2.4ポイント増加したため、D I（「過剰」－「不足」）は▲25.9となり、前期より3.3ポイント増加（不足判断が減少）し、17期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

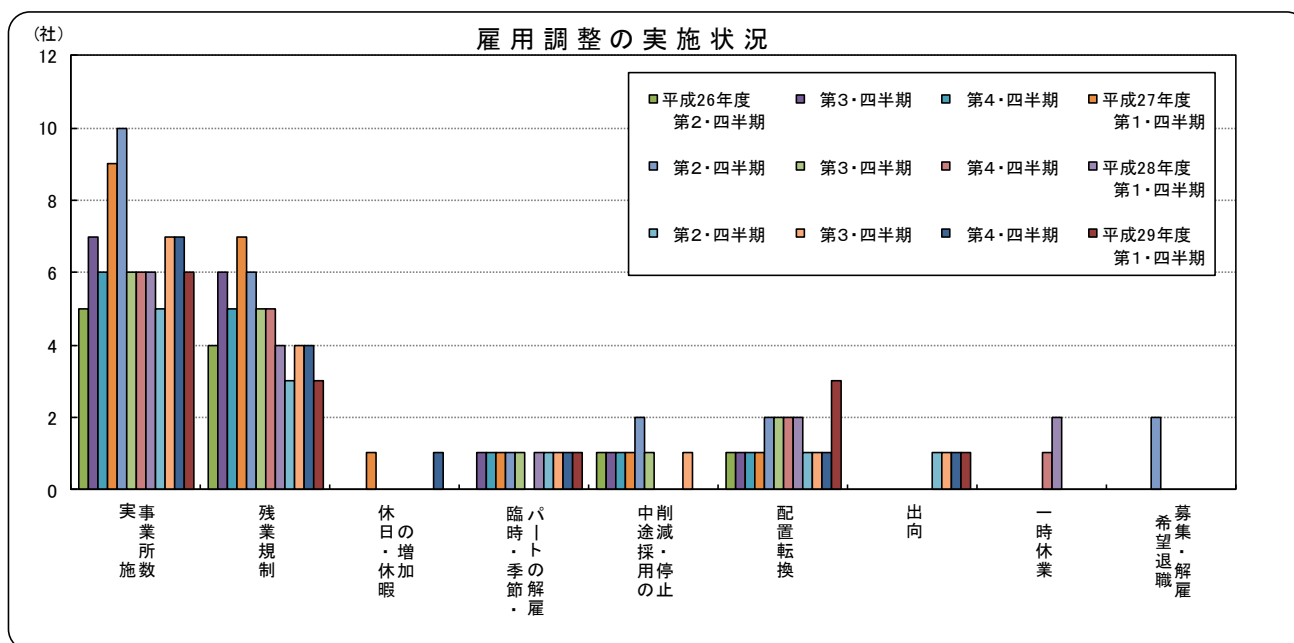
次期の見通しについては、D Iは▲25.0で、「不足」判断は減少の予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は6事業所（11.8%）で、前期の7事業所（13.2%）から減少しました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成26年度 第2・四半期	48	42	1	5	4	0	0	1	1	0	0	0
第3・四半期	50	41	2	7	6	0	1	1	1	0	0	0
第4・四半期	47	38	3	6	5	0	1	1	1	0	0	0
平成27年度 第1・四半期	51	40	2	9	7	1	1	1	1	0	0	0
第2・四半期	51	40	1	10	6	0	1	2	2	0	0	2
第3・四半期	50	44	0	6	5	0	1	1	2	0	0	0
第4・四半期	52	45	1	6	5	0	0	0	2	0	1	0
平成28年度 第1・四半期	48	40	2	6	4	0	1	0	2	0	2	0
第2・四半期	52	44	3	5	3	0	1	0	1	1	0	0
第3・四半期	51	43	1	7	4	0	1	1	1	1	0	0
第4・四半期	53	45	1	7	4	1	1	0	1	1	0	0
平成29年度 第1・四半期	51	42	3	6	3	0	1	0	3	1	0	0



<主なコメント>

- ・長時間残業の削減については、引き続き取り組んでいる。 (建設業)
- ・今期は過去最高の受注となる見込みであり、生産・売上ともに最高記録を更新する見通し。次期以降は受注が一段落し、それに伴い生産・売上も6月と同水準となる見込み。今期に大幅な設備増強を図り工場能力の拡大を行うが、生産人員が大幅に不足している。 (製造業)
- ・電気料金の値上がり、人件費の上昇が収益を圧迫している。人手不足は続いており、労働力確保のために契約社員・派遣社員の正規雇用への変更も実施。設備投資した機械の稼働に伴い、現在積極的な採用活動を継続している。 (製造業)
- ・消費動向がようやく上向きになってきた感はあるものの、食品の購買傾向の大きな改善は望めない。夏物商品の先行生産が始まり稼働はするが、収益としては引き続き厳しい。 (製造業)
- ・正規、非正規ともに人手不足であり、非正規(派遣)の単価を10~20%上げた。 (製造業)
- ・次期より新型モデル車の対応で増産見込みではあるが、収益面は厳しい。また、やや人手不足である。 (製造業)
- ・短期間での離職者が発生しており不足気味で、期間契約社員の募集を継続している。 (製造業)
- ・熟練従事者の退職等で人材が不足している。 (事業主団体)
- ・前期に比べ今期の受注・生産、販売・出荷状況は、伊勢志摩サミットや菓子博の影響もあり増加した。 (製造業)
- ・次期は、繁忙期につき収益及び稼働は増加する。 (宿泊業, 飲食サービス業)
- ・新卒者の採用数が例年を大きく割り込んでおり、人手不足の状況は続いている。 (医療, 福祉)